

新春対談

渡邊 繁雄
総社市議会議長

相川 七瀬
総社赤米大使

片岡 聡一
総社市長



総社のこれからを語る



総社赤米大使として

市長 明けましておめでとうございます。
相川さん、おめでとうございます。

相川 今年もよろしくお願ひします。

市長 相川さんを赤米大使に迎えることができ、総社市民は大喜びです。昨年は大変良い年になりました。

相川 昨年は新本で田植えから収穫までさせていただきました。子どもたちや氏子の皆さんと交流を深めることができました。来るたびに親しみが湧いています。

議長 まちおこしにも大変貢献していただいています。

市長 そうですね。相川さんのようなアーティストが赤米に注目してくれたことで、私たちも総社の赤米の良さを再認識しました。

相川 ずっと当たり前にあるものって、地元の人たちはそれが素晴らしいものだというのを忘れてしまいがちですからね。

市長 相川さんのネームバリューで多くのメディアが全

国発信しました。しかし、相川さん自身は、浮かれた気持ちからではなく、赤米の本来の良さを伝えていきたいという信念をもたれていて、最高の人に赤米の応援団になつてもらったと感謝しています。

議長 総社の赤米を広めていくことは大事なことです。同時に地元の人にも赤米をよく理解してもらえようようにしなければならぬでしょう。

相川 これからの時代を背負っていくのは子どもたちから、子どもたちが私と楽しい思い出を共有できて、それが次の世代へと連鎖していけばうれしいです。

議長 しかし、少子化で子どもが少なくなつて、特に新本ではどんどん減つていきます。赤米を継承していく上で、新たな企画なども今後の課題の一つになりますね。

市長 相川さんには最新作「ヒカリノミ」という赤米応援ソングを作ってもらい、新本小学校では毎日聴いているし、市役所でも聴いています。総社市民のスタン

ダードになつてきています。**議長** 持続していくことは力になりますから、時間がゆるせば機会を多くつくつて来てもらいたいと思います。

夢をあきらめない心

市長 最近、自分の夢を懸命に追いかけている若い人があまりいないように感じる。アーティストの相川さんのような、自分の個性で生きている人生は見習うべきだと思ひます。

相川 私は歌手になりたいという夢をもっていました。でも、中学3年生のときはクラスで浮いていていじめられてましたね。それに、中学3年間で受けたオーディションには落ち、高校に進学したけど中退してしまつて。

市長 どうしてデビューできなかったんですか。

相川 働きながら自分は最終的には何が一番好きかなと



歌手 相川七瀬

1995年「夢見る少女じゃいられない」でデビュー。現在までのCDトータルセールスは1200万枚を超えている。音楽活動以外にも小説の出版や、赤米を後世に伝えるため総社市の赤米大使に就任するなど、活躍の幅を多方面にも広げている